一般社団法人　日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

１◎巻頭言
２◎第 37 回研究大会（京都大会）のご案内
３◎第 26 回夏季ワークショップのご案内//
　新入会員紹介―栃木県支部―
４◎スクールカウンセラー情報
５◎支部のキラリ
６◎―支部活動報告―【川崎市支部】
７◎研修委員会//調査研究委員会//認定委員会
８◎学会誌作成委員会//広報委員会
９◎ガイダンスカウンセラー関連//会長コーナー
１０◎事務局より//編集後記

第 77 号

巻頭言　私と教育相談

夢の実現に向けた「目標設定」
―PBIS を活用して―

北海道・東北ブロック代表
吉田　祐子

今年も米大リーグ大谷翔平選手の活躍でテレビの前に釘付けになっている方が多いのではないでしょうか。大谷選手といえば、高校時代「8 球団からドラフト 1 位指名を受ける」という目標を設定し、努力を積み重ねてきた目標達成シートも有名です。2025 年 3 月 30 日付けの日本経済新聞に、大谷選手の恩師である花巻東高校の佐々木洋監督のインタビュー記事が掲載されました。佐々木監督は「私（監督）の仕事は、野球部員を甲子園に連れて行くことではなく、その後の 60 年以上を勝たせることだ」と言い、生徒に「夢は持っているだけではダメ。目標を具体的に立てるからこそ、実現に近づく」と語りかけています。

私は、児童生徒の成長に携わる教職員の仕事は、「子どもたちが幸せな人生を送れるように支えること」だと考えています。子どもたちが、自分のよさや可能性を伸ばし自己実現を図るために、「目標設定」は欠かせません。さらに、目標を目指すものではなく、実現させる目標にすることが大切です。

目標は立てるけれど、なかなか続かないという場合もあると思います。そこで学校現場にお勧めしているのが、PBIS を活用した「学級目標」達成に向けた取り組みです。学級集団で目標設定や実現の取り組み方を学び、目標達成の喜びを共有することができます。ほとんどの学校で学級目標が設定され、教室に掲示されていますが、残念なことに 2 学期には壁紙になり子どもたちも先生も意識しなくなっていることがあります。

ポイントは、学級目標設定後に、目標達成したときの具体的な姿（行動目標）を共有して取り組むことと、望ましい行動を伸ばす支援の方法です。具体的にどんな行動をすればいいのかが分かり、それができたときに適切なフィードバックがあることで、どの子も安心して取り組み、互いを認め合うことができます。

子どもたちと先生の夢の実現のために「学級目標」を活用してみませんか。

★第 37 回研究大会（京都大会）のご案内

「おこしやす　京都！！」

日時:令和7年8月9日(土)･10 日(日)
会場:龍谷大学付属平安高等学校･中学校

✧　**お急ぎください**
～宿の手配はお済みですか～

かつて京都の閑散期は真夏と真冬で、大会期間の８月は観光客も少なくなっていたのですが、最近の京都には閑散期がなくなってしまいました。真夏もインバウンドの外国の方が多く、宿泊料金が高騰し、部屋も取りにくくなっています。

～滋賀県大津周辺のホテルがお勧めです～

できるだけ早く宿の予約を取るようにお勧めします。もし、京都市内に部屋の空きが少ない場合は、滋賀県の大津や草津周辺のホテルがお勧めです。「大津駅」から会場最寄りの「梅小路京都西駅」まで、JR 線で 15 分ほどです。京都市内のホテルより宿泊料金も少し安くなっているようです。まだ、宿泊先が決まっていない場合はご検討ください。

✧　**参加申込みはお済みですか**
～7/28 までに学会 HP から Web 申込みを！～

① ７月 28 日(月) 15:00 までに学会 HP から、Web 申込みをしてください。
② 電算システムから払込票（ハガキ）が送付されます。
③ ８月６日(水)までに参加費を振り込んでください。（会員 7000 円、非会員 8000 円、学生会員 2000 円、学生非会員 3000 円）
※ 発表者も大会参加申込みが必要です。
※ 領収書は振込受領証で代替します。別途領収書が必要な場合は会場の受付に申請してください。

✧　**お勧めです！**
～記念講演と
本部･京都府支部合同企画シンポジウム～

【記念講演】
- 講師：野田正人氏（立命館大学名誉教授）

【シンポジウム】
- コーディネーター
  春日井敏之氏（近江兄弟社高等学校校長、立命館大学名誉教授）
- シンポジスト
  野本実希氏（近江兄弟社高等学校スクールソーシャルワーカー）
  宮迫嘉徳氏（京都市立神川中学校教諭）
- コメンテーター：野田正人氏

記念講演のテーマは**「多職種連携・協働によるチーム学校（仮）」**です。それを受けたシンポジウムでは、**「学校教育相談を軸にしたチーム学校の展開」**という企画をしました。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、児童委員、児童相談所、福祉関係者など、学校内外の専門性の高い多職種のスタッフと教職員の連携・協働により「チーム学校」を組織していきます。この「チーム学校」が、日常の発達支持的生徒指導から、即応的な困難課題対応的生徒指導にいたる様々な生徒指導と一体となった学校教育相談が機能して、私たちのめざす「チーム学校」となり得ます。この「チーム学校」を、野田氏による理論的な根拠となる講演を受け、シンポジウムで実践的に検証していきたいと考えています。ご期待ください。

✧　**夏の京都をお愉しみください**

京都には盆地ならでは暑さがある分、「涼」を楽しむ文化もあります。貴船山の麓の貴船神社や貴船の川床、鴨川沿いの納涼床などは、京都の夏の風物詩です。研究大会で学び、京都の文化にも触れ、この夏の京都をお愉しみいただければ幸いです。

（文責：京都大会実行委員長　山岡　雅博）

★第26回夏季ワークショップのご案内

第26回夏季ワークショップを、令和7（2025年）年7月27日（日）にZoomによるオンラインで開催いたします。

概要は以下の通りです。

【日時】令和7（2025）年7月27月（日）
A、B、Cコース　9:30～12:30
D、E、Fコース　13:30～16:30

【開催方法】リアルタイムオンライン

【テーマ、講師】
＜Aコース＞　一瞬で良い変化を起こす面接のコツ
講師：半田一郎氏（リソースポート代表）
＜Bコース＞　教師の創造性を解き放つ保護者との心理的安全性
講師：一色翼氏（川口短期大学こども学科専任講師）
＜Cコース＞　子育てバーンアウトを理解する
講師：古谷嘉一郎氏（関西大学総合情報学部教授）
＜Dコース＞　ブリーフミーティングによるケース会議
講師：鹿嶋真弓氏（立正大学心理学部教授）
＜Eコース＞　教育相談に活かす修復的対話
講師：綾城初穂氏（駒沢女子大学心理学類准教授）
＜Fコース＞　論文も書ける実践者になろう～論文作成講座～
講師：米田薫氏（大阪成蹊大学教授）
※各コースの概要は学会HPをご確認ください。

【受講料】
- 学校カウンセラー、学校カウンセラー・スーパーバイザー　……2,000円
- その他の学会員　……3,000円
- ガイダンスカウンセラーおよび構成団体有資格者（学校心理士、キャリア・カウンセラー、教育カウンセラー、カウンセリング心理士、臨床発達心理士）　……3,000円
- 一般　……4,000円
- 学生（社会人学生は除く）……2,000円

※受講料は1コース毎の受講料です。
午前と午後1コースずつ、計2コースを受講される場合、2コース分の受講料が必要です。

※受講料のお支払いは、お申込後に送付する振替用紙にて期日までにお支払いください。

【受講申込】学会HPよりお申し込みください。

【受付期間】5月20日（火）正午
～7月14日（月）15:00

【問合せ先】日本学校教育相談学会夏季ワークショップ受付サポート係（平文社内）
TEL　03-3944-0301
✉　jascg-ws@heibun.co.jp

会員の皆さまのご参加をお待ち申し上げるとともに、皆さまからも周囲の方にご紹介いただけますと幸いです。

（文責：研修委員長　会沢　信彦）

★新入会員紹介ー栃木県支部ー

栃木県支部では、会員からの勧誘、研修会への参加などをきっかけに、この2年で十数名の新しい仲間を迎えました。今回は、会員が職場で声をかけ、共に実践したことから入会につながった4名の方を紹介します。

○黒須瞳先生　ずっと教育相談に関心があり、これまでにたくさんの研修を受講、一つ一つ「なるほどな」と感じつつも、いざ実践となると何をどうしていいのか分からなくて、スッキリしなかったそうです。会員の同僚から「何か一つ軸足となるものを見つけるといいよ」とアドバイスを受けて入会、日々学級の仲間づくりを実践されています。

○齋川由香先生　「子どもたちに楽しい場面を提供したい」その思いでいろいろ取り組んできたのですが、なかなか思い通りにならず迷っていたところ、会員の同僚から「失敗は全然問題ないよ、一緒に次を考えよう」と励まされて入会、特別支援学級での仲間づくりの実践を楽しんで継続されています。

○瀬端成基先生　生徒指導・教育相談領域で県の教育センターに内地留学後、子ども一人一人の心に寄り添うチーム学校づくりに注力する会員の校長先生から「入会して、実践・研究を継続していこう」と勧められたそうです。県・町教育委員会主

催の研修会等でも、内地留学の成果を発表されています。

○斎藤悠雅先生　会員の同僚と同じ学年を組み、合同体育等で取り組んだグループカウンセリングの「対人関係ゲーム」に興味をもって入会したそうです、毎日のように発行している「１ニュース通信」に加え、学級経営の軸として大いに活用して実践されています。

会員の実践に共感し、意欲を高め、新会員が増え、共に学び、実践する、そんな連鎖や仲間の輪が広がっていくように、支部会員皆で学校教育相談に励んでいきたいです。

（文責：栃木県支部理事　伊澤　孝）

★スクールカウンセラー情報

「SCに求められていること」

山梨県支部　内藤　雅人

新採用の年、幸いにも甲斐志郎先生と出会うことができました。山梨県に学校教育相談の種をまかれた大先輩です。以来、学校教育相談やカウンセリングの理論と方法に基づいた実践を重ねてきました。学校を退職後はスクールカウンセラーとして勤務したいと考えていましたが学校カウンセラーやガイダンスカウンセラーの資格では採用が難しいため公認心理師の資格を取得し、採用検査に応募しました。

本県の「スクールカウンセラー等活用事業実施要項」に目を通したところ「いじめや不登校等の未然防止、改善及び解決並びに学校内の教育相談体制等の充実を図り、もって教員の資質能力の向上に資することを目的とする」と記されていました。40 年以上前、故甲斐志郎先生が本県に学校教育相談の勉強会を立ち上げた当時の目標そのものであります。

ＳＣとして勤務するに当たって私が最も重視していることは、「チーム学校の一員としての自覚」「教職員に対する十分な情報提供」「問題解決のきっかけや手掛かりを得られるような解決志向型のカウンセリング」であります。面談、相談は様々な場所で行われていますが、学校におけるカウンセリングにあってはいずれも欠くことのできない要素であると考えています。無論、相談者の同意を得ないまま面談の内容を漏らしたり、指導や助言を強く行ったりすることは厳に慎むよう心掛けています。

現場の先生方から最も肯定的に受け止めていただいているのが情報の提供です。「面談の状況が分からないので指導方針が立てられないことが多々あった」という話はよく耳にしました。面談の内容に関する守秘義務の解釈についてはカウンセラーによってばらつきがあることを実感しています。外部に情報が漏れることはあってはならないことですが学校における指導の改善・充実に資するためにはチーム内での情報共有は不可欠であると思います。

児童生徒や保護者からの感想で多かったのは「何をすればいいか自分なりの方法が見つかった」「プラス思考で考えられるようになったので希望が持てた」「頑張ってみようという気持ちが湧いた」などです。「聞いてもらって気持ちが楽になった」ということも必要ですがスクールカウンセリングにおいては、「ヒントが見つかった」「何を頑張ればいいか分かった」「できそうな気がする」などの感覚や気づきが大切だと思っています。

ＳＣの研修会で他のＳＣがよく口にするのは、「学校は敷居が高い」「居場所がない」「完全アウェー」という言葉です。「そういう感覚を持ちませんか？」と振られるので「たしかに」と答えるのですが、実際のところそのような感覚はありません。それは自分が教員であったからだということに気づかせてもらいました。

ガイダンスカウンセラーがＳＣになることの意義がここにあるのだと思います。現状では採用試験においても待遇の面においても公認心理師、臨床心理士より不利な立場にあるかもしれません。しかし、学校現場を知っている私たちがＳＣとして学校に入り児童生徒に寄り添い教職員を支援する意義は極めて大きいと感じています。「雑談やコンサルテーションを通じて教育相談への理解が深まりました」「指導の改善が図られるようになりました」「いつでも話しかけられるので心強いです」こんな言葉をいただくのは何よりの喜びです。学校カウンセラーやガイダンスカウンセラーの資格を有する仲間が大勢学校現場に入っていく日が来ることを願ってやみません。

（担当：鈴木　由美子）

☆支部のキラリ！☆

岡山県支部からは松本一郎先生を紹介します。先生は支部で研修委員長、副理事長を歴任され、県支部の研究実践分野で常に支部会員をリードして来られた方です。現職時代には中学校で教頭、校長としてSWPBISを研究し、自校で広く実践して多くの成果を上げて来られました。現在も大学や学校現場で後進の育成と共に自身の実践研究にも取り組まれているとても意欲的で魅力的な先生です。

岡山県支部理事長　三上政誉志

「よさを認める学校づくり」（ＰＢＩＳ倉敷モデル）

松本　一郎

私は30代の終わり、突然、県教育センターの教育相談部に2年間の出向を命じられました。そこで、その後岡山県支部をけん引する先輩方と出会い、教育相談を学び始めました。その後、しんどい学校の生徒指導主事や行政を経験しました。総社市で教頭になったとき、「だれもが行きたくなる学校づくり」に出会いました。この取り組みを主導した前岡山県支部理事長の藤井和郎先生が校長でした。マルチレベルアプローチという包括的生徒指導の考え方を、前学校教育相談学会長の栗原慎二先生をはじめとする多彩な講師陣から3年間学ぶことができました。年ごとに生徒や学校は変容し、「だれ行き」の効果を確信しました。

その後、倉敷市教育委員会に配属になりました。総社市の「だれ行き」を倉敷市にも取り入れたいと思いました。「だれ行き」は、「協同学習」「ピアサポート」「SEL」「ポジティブ行動支援（PBIS）」を総合的に実践する規模の大きな取り組みです。そこで、その中からPBISを、中でもグッドビヘイビアカード（以降、GBカード）を中心とし、研究指定校を20校設け、研究実践を2年間行いました。

研究指定中学校の一校が、その年の7月の西日本豪雨のため被災しました。研究指定は中止としましたが、授業が再開した10月頃に、校長先生から「研究を再開・継続したい」と電話がありました。理由を尋ねると、「生徒が、水害で無くなったGBカードが欲しい言うんじゃ」とのことでした。先生方のGBカードが、被害を受けた生徒たちを励まし続けていたのです。この時ほど、GBカードの効果を実感したことはありませんでした。

校長になり、教育相談と人権教育を学校経営の中心に置き、いじめ・不登校の未然防止や学力の向上を目指しました。中でもGBカードの活用をスクールワイドで実践しました。

1年目は教員から生徒へのカードとしてスタートしました。年度末の生徒アンケートで、「先生からもらうのもうれしいですが、私たちも書きたいのです。私たちのカードを作ってください。」という声が多数ありました。2年目からは、生徒が書くカードがメインとなりました。4年間で、5万枚のカードが書かれました。市全体としては、不登校の数が右肩上がりに増加する中で、4年間現状維持を続けました。

本校でのPBISの取り組みは、解決志向アプローチやポジティブ心理学の考え方を盛り込んだ独自の汎用性が高い実践です。詳しく述べることが紙面の都合もありできませんが、下のURLから資料を見ていただけますと幸いです。

現在は、教職を目指す学生のみなさんに、これらの実践を紹介し共に学んでいます。教職を目指す学生には、様々な不安を抱えている人もいます。教育相談を基にした様々な実践を学ぶことによって、よろこびにあふれる教員人生を実現してほしいと願っています。

○倉敷市立西中学校　https://www.kurashiki-oky.ed.jp/nishi-j/pbiskuranishi.html

○倉敷市教育委員会　https://www.okayama-ebooks.jp/?post_type=bookinfo&p=17984

（担当：小川　正人）

★-支部活動報告-【川崎市支部】

川崎市支部は学会創設の翌年から支部としての活動を始め、今日まで34年の歩みを続けてきました。現在の会員数は30人。顔と名前を覚えるにはちょうどよい規模であることから、自由に発言し、活発に意見交流ができる雰囲気のある支部となっています。

支部では、定期的に理事会を開き、情報を持ち寄り、知恵を出し合って年2回の研究・研修会と年1回のスキルアップ研修を企画しています。

第1回研究・研修会には子どもの心理や発達、教育課題に詳しい講師を招きます。講演から得られる専門的な知識とワークショップで磨かれる子どもの言動の意味を的確に捉える感覚をリンクさせることで、現実場面で生きる力を養う研究・研修会になっています。

第2回研究・研修会では川崎市内の学校や相談機関などの事例を取り上げます。講演と助言、それにグループ協議が噛み合うと、初めの印象とは全く異なる事例に思えてくることがあり、その体験をした会員が毎回欠かさず参加する研究・研修会になっています。

スキルアップ研修では、エンカウンター、ロールプレイ、カウンセリングといったテーマを取り上げます。教育相談入門者にとってはこれらの理論や技法を知る貴重な機会であり、長く教育相談に携わってきた参加者にとっては自身の実践を振り返りながら学び直す場になっています。

一方、支部の課題となっているのが、思うように新規入会者が増えないことです。その対策として、数年前から研究・研修会の積極的な周知に努め、市教委の後援もとりつけて教員やSCの研修会等で案内チラシを配ることにしました。その甲斐あって、昨年度の研究・研修会では“常連”の中に初任教員やSC、またこれらをめざしている大学院生といった“新顔”が見られました。

今年度は、昨年まで丸一日かけてきた2回の研究・研修会を半日に短縮し、これに伴って参加費の軽減や無料の“お試し参加”制度を設けるなど、誰もが参加しやすいと感じる工夫を加えることにしています。

【令和6年度の活動】

☆第1回支部研究・研修会

期日　令和6年6月23日（日）

内容　講演・ワークショップ

「ジブリ映画を通して子どもの心の成長を考える」

講師　光元和憲 氏（ちば心理教育研究所所長）

会場　川崎市立小杉小学校

☆認定カウンセラーのつどい

期日　令和6年8月25日（日）

内容　各学校及び教育機関における活動及び情報交換

会場　川崎市中原市民館

☆スキルアップ研修

期日　令和6年12月1日（日）

内容　講演・演習「話の聴き方の基本を学ぶ」

講師　滝口千代 氏（心理カウンセラー）

会場　川崎市中原市民館

☆第2回支部研究・研修会

期日　令和7年1月25日（土）

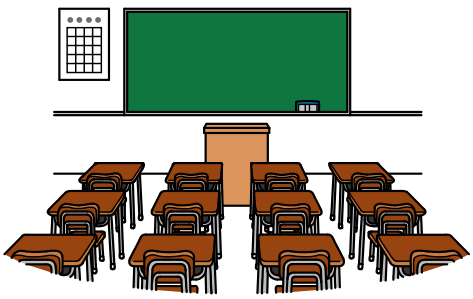
内容　講演・事例研修

「精神疾患の理解と家族の支援」

講師　芳川玲子 氏（国際心理科学研究所 取締役代表カウンセラー）

会場　川崎市立下河原小学校

（文責：川崎市支部理事長　山本 浩之）



★研修委員会

1．第35回中央研修会（令和７年１月26日）のふりかえり

第35回中央研修会については、午前のコース別講座（４コース）、午後のパネルディスカッション、そして夕方のオンライン交流会と、大変充実した内容となりました。

課題は、前回の第34回中央研修会に比べ、参加者が大幅に減少したことです。委員会では、その点についてさまざまな観点から議論を行うとともに、次回の中央研修会の実施方法について、以下の通り大幅に見直すこととといたしました。

2．第36回中央研修会について

第36回中央研修会については、全面対面で行うこととといたしました。なお、対面での中央研修会は、令和２（2020）年１月11日（土）・12日（日）の第30回中央研修会以来となります。

＜日　時＞令和８（2026）年１月10日（土）・11日（日）

＜場　所＞文教大学越谷キャンパス（埼玉県越谷市）

＜内　容＞

１日目（10日(土)）については、基調講演、パネルディスカッションおよび懇親会を行います。

２日目（11日(日)）については、コース別講座を予定しています。

詳細については改めて会報、学会HP等でお知らせいたします。ご期待ください。

（文責：研修委員長　会沢　信彦）

★調査研究委員会

調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」をテーマに、①教育相談コーディネーターに関する研究、②教員に求められる教育相談の力に関する研究を進めており、会報76号でも、「教員に求められる教育相談の力」について28項目から成るチェックリストを作成したことをご報告いたしました。このチェックリストは、学会員である小、中、高校の先生方にご協力いただいた回答から見出された教育相談に関する力（「アセスメントする力」、「関わる力」、「集団づくり」など）から項目を作成したもので、教員が自分自身の教育相談の力をチェックする際や、教育相談の研修について考える際などに活用していただけるものになればと考えています。今回、チェックリストを完成させるにあたり、学会員の皆様にアンケートへの回答にご協力をお願いしたく思っております。ご協力をお願いする文書を会報に同封させていただきました。回答にかかる時間は5～10分ほどで、お願いの文書でお知らせしているURLまたはQRコードにアクセスしていただき、Googleフォーム上で無記名でご回答いただくものになります。質問項目や質問のしかたについてお気づきの点をご記入いただく欄も最後に設けておりますので、ぜひご意見をいただけましたら幸いです。回答の締切は７月15日としております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：調査研究委員長　金子　恵美子）

★認定委員会

○令和６年度の資格取得等の状況について

- 学校カウンセラー新規取得者　　３６名
- 学校カウンセラーを基礎資格としたガイダンスカウンセラー新規取得者　　１１名
- 学校カウンセラースーパーバイザー新規取得者　　１名
- 学校カウンセラー資格更新認定者　５８名

○今年度の各種申請の締切等について

- 学校カウンセラー申請
  要項配付済み　締切：９月15日
- 学校カウンセラースーパーバイザー申請
  要項配付済み　締切：９月30日
- 学校カウンセラー更新申請及び学校カウンセラースーパーバイザー更新申請
  該当者への案内配付７月上旬予定
  締切：12月20日

＊今年度の該当者は、登録証明書（カード）の有効期限が2025年及び2026年3月31日までの皆様です。

- 学校カウンセラーを基礎資格とするガイダンスカウンセラー申請
  案内配付７月下旬予定
  申請受付期間：９月１日～30日

どうぞ皆様、期日までに申請書類のご提出をよろしくお願いします。ご不明な点は認定委員会へお問い合わせください。

○第4回学校カウンセラー事例研究会・情報交換会について

令和5年度、6年度の学校カウンセラー新規認定者を対象にオンライン方式で事例研究会・情報交換会を開催します。

対象者への案内配付：8月下旬予定

開催日時：11月22日(土) 10:00～12:00

新しく学校カウンセラーになられた皆様、ご一緒に学び合いましょう。是非ご参加ください。

（文責：認定委員長　簗瀬　のり子）

★学会誌作成委員会

本会報と共にお届けしている学会誌第35号をご覧ください。今回は寄稿論文2本と投稿論文5本を掲載しています。

さて、会報第67号でお知らせしましたが、学会誌第33号以降に掲載される論文のうち、事例を扱っていないもの、そして執筆者の了解が得られたものについては、公表することにしております。公表の方法は、学会HPからの閲覧及びJSTAGEやCiNii等において検索可能とする予定です。

公表の可否については、学会誌掲載決定後に、執筆者に個別に確認いたします。この論文公表に伴い「審査に関するガイドライン」が修正されています。学会誌第32号に掲載している「投稿規定・審査に関するガイドライン」をご確認ください。

次に、「論文作成連続講座」を昨年度に引き続き開催します。1月、2月、3月に1回ずつ連続で受講していただき、お持ちの原稿を学会誌に投稿できるようブラッシュアップしていきます。

講座は少人数の同期オンライン、ゼミ形式で行います。詳しいご案内は、冬の中央研修会のご案内と同時にさせていただきます。

夏のワークショップでは、本会報に同封のチラシのとおり、これまで同様の「論文の書き方」コースを実施しますので、ぜひご参加ください。

（文責：学会誌作成委員長　中村　豊）

★広報委員会

☆学会公式SNSの運用開始について

学会の公式SNSの運用が開始されました。主に学会HPの最新情報を並行して発信していきます。さらに、スマホ使いを前提としたSNS独自の素速い情報提供も模索していきます。運用を開始するツールは、XとFacebook・Instagramの3つです。今後、会員のニーズによっては学会公式LINEの開設も検討します。

登録していただき、プッシュ通知等を設定しておくと、学会のHPとも連動して、最新の情報をキャッチすることができます。使い慣れない方が多いかもしれませんが、これを機に活用してみると手軽さや便利さを感じていただけると思います。

この学会公式SNSは、学会HPへの掲載、更新と連動するほか、各専門委員や支部役員、研究大会実行委員会が、SNS担当者にメールで依頼することにより、SNSのみによる情報発信もしていきます。紙の通知やHP掲載事項について、追加情報、締め切り間近のお知らせ、至急のお知らせ、学会員以外への研修会情報などの発信を想定しています。

今後しばらくは、正式なツールとして紙の通知や学会HPの活用が続くと思われます。しかし、いずれは、多くの会員が、そして、会員以外の教育相談分野に興味のある人々が、主たるツールとして、SNSによる学会情報発信を簡便に利用していくと予想されます。会員の利益・利便性の向上、次代を担う中堅・若手の新規会員の入会にもつながると考えています。目的や意義をご理解の上、積極的にご活用ください。

当面は、正式の通知は紙、webコンテンツの中心は学会HPであり、これまでとほぼ変わらない手続きで学会SNSにも連動させ、リンクさせていきます。専門委員会や支部による学会SNS利用方法の詳細については、今後の全国役員会や支部代表者会議等の中で共有を図り、メール配信でも周知していく予定です。

（文責：広報委員長　松本　直美）

★ガイダンスカウンセラー関連情報

2017年1月20日に発表された文科省のHP「教育相談に関する調査研究協力者会議」の報告の中で、スクールカウンセラーとして初めてガイダンスカウンセラーの必要性が確認されました。その後、2020年10月のHPには、「スクールカウンセラー等活用事業に関するQ&A」の中で、公認心理師、臨床心理士、大学関係者のほかに「スクールカウンセラーにふさわしい資格として、学校現場における心理支援の実務の実績を重視する一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会の認定に係るガイダンスカウンセラーなど、心理及び学校教育に関して専門的な知識・経験を有する者が想定されます。」が発表されました。

そして2024年には文科省からの委託事業として、「心理に強い教員の資質・向上プログラム」のテキスト作成を依頼され、2025年度からは「スクールカウンセリング専門研修プログラム」を開講することになりました。61のｅラーニング講座＋医療機関でのオプション講座から成る本プログラムは、日本では類を見ない、スクールカウンセリングの体系を系統的に学べる専門研修プログラムとなっており、スクールカウンセラーを目指されている方や現在SCの仕事をされている方にとって、最適のプログラムとなっております。今年度の申し込みは締め切りましたが、来年度のお申し込みをお待ちしています。

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会HP：http://jsca.guide

（文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事　学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー　加勇田　修士）

★会長コーナー

新緑が眩しい季節になりましたが、みなさんお変わりないでしょうか。私の方は、滋賀県の私学近江兄弟社高等学校校長の怒涛の1年間が終わり、少し穏やかに2年目を迎えています。管理職会議や運営委員会などがチームとして機能していることに支えられ、手応えを感じています。

本学会の会長としての職務も4年目を迎え、今年の総会までの任期となりました。会長・副会長会や役員会、各委員会、支部代表者会議・事務局長会議などがチームとして機能していることに支えられてここまでやってこられたと感謝の気持ちでいっぱいです。

学校風土の可視化、見直しが、文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」で提言されています。子どももチーム学校の一員です。子どもたちが、どんな学校を求め（学校像）、どんな先生を求め（教職員像）、どんな人になりたいと願っているのか（人間像）。子どもたちの声を聴きながら学校づくりを一緒に進めていきましょう。

8月9日（土）～10日（日）に本学会の第37回研究大会が京都市（平安高校）で対面開催されます。その際に、本部・京都府支部合同企画で「学校教育相談を軸にしたチーム学校の展開」と題して、シンポジウムを行います。昨年の本部企画シンポジウムを受けて、記念講演講師の野田正人先生にも参加していただき、学校現場での具体的な実践について報告、議論をしたいと考えています。京都でお会いしましょう。

（文責：会長　春日井　敏之）

★事務局より

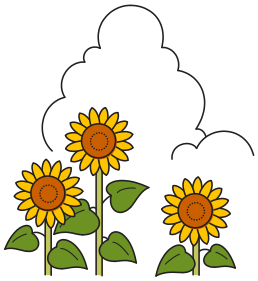
夏の京都大会に関する三次案内をお届けします。申込は学会HPより受け付けています。今回もHPからの申込になっていますので、お間違えのないようにお願いします。今回の京都大会も参集型の大会です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

〇総会は、今年度から夏の大会とは別日に開催します。7月19日（土）の午後からオンラインで行います。詳しいことは、同封しました案内をご覧ください。

〇支部代表者会についても、６月22日（日）にオンラインで開催しました。参加して頂いた皆様、ご多用のところ参加していただきありがとうございました。

〇メルマガによる情報発信を始めて２年が経過しています。今後は、メルマガでの発信を充実させていきます。各支部を通さなくてもメルマガ登録することができるようになっています。是非、多くの皆様に登録していただけたらと思っています。

（文責：事務局長　木村　正男）

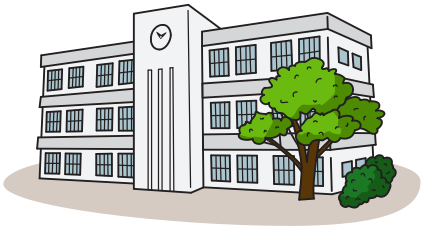


★編集後記

今号も、巻頭言やスクールカウンセラー情報に、支部のキラリなど、示唆に富み、会員の実践を強く後押ししてくれる内容がそろいました。さらに、京都大会や対面による中央研修会の復活など、研修意欲をそそる案内や有益な情報も並びました。それぞれ有効にお役立てください。

さて、7月の総会を経て、今年度は任期を迎える各専門委員会の委員の入れ替えが進むことになり、広報委員も何名かの退任が見込まれます。中でも望月保美委員（東京都支部）と小川正人委員（栃木県支部）は、広報委員会の中核として長年活躍されました。会報の作成に中心的に関わるのは、今号が最後になります。本当にお疲れ様でした。

（文責：広報委員長　松本　直美）



一般社団法人日本学校教育相談学会　会報
第77号
令和7年6月20日発行
発　行　一般社団法人　日本学校教育相談学会
会　　長　　春日井　敏之
編　集　一般社団法人　日本学校教育相談学会
広報委員会　委員長　松本 直美
事務局　〒179−0073
東京都練馬区田柄3−11−28
一般社団法人　日本学校教育相談学会事務局
電話/FAX　03-3926-7386
HP　http://www.jascg.info/